



君美洞卷

元

73  
1111  
1





君義同云

郡郷

倭名類聚抄廿六歳七通の國名の下郡  
名とほし廿六七八九小西郡の下多々の地を  
ほしは此後名同郷名の中りいれ何れ

店圖

店と申すの古本を以てしるは中以下おぼし  
官店月がしるしの出取と<sup>至</sup>しるしは  
の中よりと云ふはあつたる所は  
なるとしるしを以てしるしは郷

明治八年十月二十七日  
平田職康氏寄贈





別高句高

世二ツハいふとらうらうらふくみ

開園 弄人

昔の証跡而又い文友ささくは穢名ささく  
振るふとまきこいふりぬ

公文 院書

昔を院司徳信のしふわの人ささく  
いふぬのこふとささくいふ所殿別高句高  
人居何少海身本別高句高内舎人昔本  
此牙要細中作らぬ

史部 使部 門部 伴部

世々の名目いふとらうらふくみ

帳内 資人 健兒 大長 雑色 夜免

如及 人長 涪徒 相撲 最子 脚子 振子

布小同

念人

村 徳永の所ささくいふとらうらふくみ

押取使

いふとらうらふくみ

弄侍 弄女

























とつていふ事ありて友友の記にハテの記を  
あつていふ事ありていふ事ありていふ事あり

殿別書 合人

院は殿別書なる年々いふ事ありていふ事ありて  
中殿所之なる事ありていふ事ありていふ事あり  
これ院より補中殿の事ありていふ事ありていふ事あり  
いふ事ありていふ事ありていふ事ありていふ事あり  
いふ事ありていふ事ありていふ事ありていふ事あり  
いふ事ありていふ事ありていふ事ありていふ事あり  
いふ事ありていふ事ありていふ事ありていふ事あり  
いふ事ありていふ事ありていふ事ありていふ事あり

殿別書

殿別書と松林抄なる事ありていふ事ありていふ事あり  
不承不承と補中殿の事ありていふ事ありていふ事あり  
玉海之なる事ありていふ事ありていふ事あり

后伺

これいふ事ありていふ事ありていふ事あり

河内殿別書

河内殿別書と松林抄なる事ありていふ事ありていふ事あり  
不承不承と補中殿の事ありていふ事ありていふ事あり  
玉海之なる事ありていふ事ありていふ事あり



去年に於て所存不替を老に好望とて之志を  
誓ひ用ひしは方より此所誓を志とて此孫  
母傳教善し之を名を信く海く不誠を意に  
此後人凶悪とて之を人く月や一と事ら  
之に於て一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら  
細邦のいふとて一と事ら一と事ら一と事ら  
下友のいふとて一と事ら一と事ら一と事ら  
此名とて一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら  
くも一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら  
とて一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら

上古より一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら  
信ありて一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら  
其庫寮ハ回節一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら  
かく一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら  
ゆり一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら  
細腰一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら  
帯細し一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら  
中帯者ハ八省の長ハ此細帯一と事ら一と事ら一と事ら  
一人一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら  
一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら一と事ら



これに任ずる日と求る人ありて日あり  
任ずる日ありて日ありて日ありて日あり  
中これに任ずる日ありて日ありて日あり  
ありて日ありて日ありて日ありて日あり  
ありて日ありて日ありて日ありて日あり  
ありて日ありて日ありて日ありて日あり

史部

これに任ずる日と求る人ありて日あり  
任ずる日ありて日ありて日ありて日あり  
中これに任ずる日ありて日ありて日あり  
ありて日ありて日ありて日ありて日あり  
ありて日ありて日ありて日ありて日あり  
ありて日ありて日ありて日ありて日あり

史部

此名目にて是なり

使部

これに任ずる日と求る人ありて日あり  
任ずる日ありて日ありて日ありて日あり  
中これに任ずる日ありて日ありて日あり  
ありて日ありて日ありて日ありて日あり  
ありて日ありて日ありて日ありて日あり  
ありて日ありて日ありて日ありて日あり



侍の中より格勅と申すは月とこれに幹のま  
少年おおはれかき格勅者いはるの傍序を  
はり申す

大長

撰非遠は庭のりまは主人

雑色

凡侍と申すはすめくはる六位の上より格勅と申すは  
格勅者い侍は格勅申す部部刀と申すは  
侍と申すは格勅の格勅と申すは格勅と申すは  
二侍と申すは格勅と申すは格勅と申すは

は格勅と申すは格勅と申すは格勅と申すは  
侍と申すは格勅と申すは格勅と申すは  
格勅と申すは格勅と申すは格勅と申すは  
格勅と申すは格勅と申すは格勅と申すは  
格勅と申すは格勅と申すは格勅と申すは  
格勅と申すは格勅と申すは格勅と申すは  
格勅と申すは格勅と申すは格勅と申すは  
格勅と申すは格勅と申すは格勅と申すは

格勅

格勅と申すは格勅と申すは格勅と申すは  
格勅と申すは格勅と申すは格勅と申すは  
格勅と申すは格勅と申すは格勅と申すは  
格勅と申すは格勅と申すは格勅と申すは



明正二年三月廿七日  
（本甲約）  
 記  
 日者人  
 衣被お察々人  
 のこと  
 廣橋一任  
 記曰  
 平副人  
 の所  
 務  
 本  
 水  
 新  
 一  
 毎  
 一  
 具

人長

之れを神の御人

信從

聖旨書白糸糸遊の旨終の者と申すに對  
常人一中信從と申すに對

相撲最

之れを今信ふ申すに對

申す候

之れも只今申すに對

念人

競馬討殺し可なり

の人れは

押込使

之れを法正國司の御下と申すに對  
事少く或時阿の御下と申すに對  
之れを御下と申すに對  
之れを御下と申すに對

書侍

之れを信の御と申すに對  
其意を女と申すに對





姓氏

甲申少く姓氏の産所にも似たりしと云ふ事  
國史に獨姓を云はれ姓ノ字はほゞ一訓一  
名も世傳を介する事方々之を押さるるも  
訓一々いふ事一姓は右條の如く一々  
ゆゑに一々いふ事一姓は右條の如く一々  
ゆゑに一々いふ事一姓は右條の如く一々  
ゆゑに一々いふ事一姓は右條の如く一々  
ゆゑに一々いふ事一姓は右條の如く一々

正徳中二年

正徳中二年辰歲梅澤少流遠授字年一

新子最後子

右 正徳中二年 辰歲 梅澤 少流 遠授 字年 一

君美問

一 冠 厚額 厚額 透額

方寸割り何大物と云ふ一もな

細透尾 細縷を以ていふ

一 烏帽 之烏帽子 手ら肩 少後肩 同折半礼

片肩

一 細烏帽子 女之折と云ふ一もな

みり之烏帽子 女之烏帽子 法隆寺烏帽子

法隆寺烏帽子 女之烏帽子 物持少之のたひ

物持

一 末額 帽類 白皮の如く二物と云ふ割り

一 袍 金襴を以て後子のと云ふをいふ流し

黄袍 之位の袍 之をいふ又いふ

唐装束 生世装束 深世装束

之割りいふは細絹小の作をいふ

之をいふは細絹小の作をいふ

一 半纏 一打衣 一物

之をいふは半纏と云ふは打衣の字をいふ

衣の白と云ふは白の字をいふ

之をいふは半纏と云ふは打衣の字をいふ

一 大に 前法 紅法 大口 右肩半 之割り

一直衣 巾直衣 烏帽子直衣 小直衣 袴直衣  
無綯直衣 長袴袴直衣

以上七つ内 西衣と方より此七つ直衣は之月より此方  
と作らる

一 右衣 之類 袴直衣 之月より此方

一 奴袴 一巾袴 巾袴 何れ袴と申し此方此方  
并に袴直衣 袴直衣 袴直衣 袴直衣

上袴巾袴と申し此方此方此方此方

一 半尻 之類 袴直衣 袴直衣

一 袴衣 白襖袴衣 白襖袴衣

袴衣布衣 袴直衣 袴直衣 袴直衣 袴直衣  
袴直衣 袴直衣 袴直衣 袴直衣 袴直衣  
袴直衣 袴直衣 袴直衣 袴直衣 袴直衣  
袴直衣 袴直衣 袴直衣 袴直衣 袴直衣

一 袴襖

袴襖 袴襖 袴襖 袴襖 袴襖  
袴襖 袴襖 袴襖 袴襖 袴襖  
袴襖 袴襖 袴襖 袴襖 袴襖  
袴襖 袴襖 袴襖 袴襖 袴襖

一 小衣 青袴 袴袴 之類 袴直衣 袴直衣

一 淨衣 之類 袴直衣 袴直衣

一 水干 水干袴 水干袴 袴袴

此物と山平とをみりしゆりては所は又山平  
後とてくは徳にいふれきと書抄しとて  
及みしゆりてはゆりてはゆりてはゆりては  
ゆりてはゆりてはゆりてはゆりてはゆりては  
ゆりてはゆりてはゆりてはゆりてはゆりては

一 長信

一 直書

此物と山平とをみりしゆりては所は又山平  
後とてくは徳にいふれきと書抄しとて  
及みしゆりてはゆりてはゆりてはゆりては  
ゆりてはゆりてはゆりてはゆりてはゆりては  
ゆりてはゆりてはゆりてはゆりてはゆりては  
ゆりてはゆりてはゆりてはゆりてはゆりては  
ゆりてはゆりてはゆりてはゆりてはゆりては

此物と山平とをみりしゆりては所は又山平  
後とてくは徳にいふれきと書抄しとて  
及みしゆりてはゆりてはゆりてはゆりては  
ゆりてはゆりてはゆりてはゆりてはゆりては  
ゆりてはゆりてはゆりてはゆりてはゆりては  
ゆりてはゆりてはゆりてはゆりてはゆりては  
ゆりてはゆりてはゆりてはゆりてはゆりては



馮温帝 冯温帝 金吾也帝 沮摩帝

其示の別人の何れのもの

一 古方 佛をり名目其を創製せしめ

細細 野細

けり物に創りて... 前修の也  
細と或は年額細或は毛皮細或は草徒細也  
P... 之... 其... 其... 其...  
因... 其...

螺細 其地螺細 其地螺細 其地螺細

螺細前修... 其地螺細... 其地螺細...

司... 其... 其... 其...  
其... 其... 其... 其...

前修 其の如何と可ひし也

其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其...

足腰 名目ははらばら深淵の何月ひくともまき

六位用の方を指形さすものなりしつねと云は

と云はれり六位中の月ゆるふに割る所

鳥頭翹 鷹向の月ゆるふに割る所

一尻鰭 尻皮竹釣皮 犀皮 汎猪

信尻鰭 左鰭 右鰭 細尻鰭 丸尻鰭

方々割洋の所を

一牛緒 葉緒 毛緒 摺緒 棟緒 標緒

大石の足ふらぬもり糸を結ぶものなり

あつちのくちのくちのくちのくちのくち

一弓 糸緒 女房具 踊 海部 真卷

舟形細糸の信糸はゆれ糸なりぬり糸なり

一竿胡麻 木化狸細糸 信狸細糸

表竿 竹釣竹釣 木をゆきしひり糸は信狸細糸の信糸なり

一壺胡麻 一編胡麻 一靱

壺はくち胡麻靱糸の形也

一糸 糸形 角舌 金細上糸

糸は細く作らば又かきかき糸なり

一靱 半靱 靱半靱の形也 割洋の所を

一鞋 草鞋 線鞋 笠 方々割る所







四つ折の白装束とともいふものもある

深分袴 白袴袴 菓經中 袴衣

白袴袴 重腰巾

所

綿襦袢 振腰 綿袴

此の如く割袴小作も有る

馬割は装束より割袴より何れのものともいふ

袴衣袴 古地

手振は装束より袴よりいふものあり

菓經中

一 小倉人形装束 小倉人形の中にもいふものあり

袴衣袴 色袴 小作袴

一 雑色装束 雑色小雑色や本雑色ともいふ

此の如くいふ

年礼上ハナ 白袴袴 礼緒

一 車割は装束・車割ともいふものあり

烏帽子コウア 袴袴

一 牛飼装束

水干 葛袴

馬割より下牛飼との装束も有る

洋小作作手及白

一居間一馬部

一佃月

世平いんちのくとより兵に中佃一の字者畧  
おん之を印字いんち

一有号佃装束

綿帽子 紫領袴衣 白布袴 金腰巾

熊の膳 餌囊 紅襦 烏頸釦

一犬佃装束

帽子 紺布袴衣 緋草履

